

水道施設の耐震化について

災害に強い水道施設の耐震化を進めています

水道施設は、市民生活や都市機能に欠かせない重要なライフラインです。地震などの災害時においても給水機能が確保され、断水による社会経済や市民生活への影響を最小限にとどめることが重要です。

安心・安全な水道水を安定して供給するため、老朽管の布設替えや地震災害に対する耐震化などの施設整備を進めています。

浄水場などの主要水道施設の耐震化

浄水場や配水池などの主要水道施設は、水道水を安定供給するための重要な施設であり、地震などの災害時においても緊急給水を確保できるよう整備することが必要です。串間市の水道施設（上水道1、簡易水道8）の現状は、昭和35年に供用開始した上水道をはじめ、各水道施設の老朽化が進んでいる状況です。このことから、老朽施設の更新を含め、計画的に主要水道施設の耐震化を進める必要があります。

上水道は平成22年4月より西区浄水場、平成25年4月より東区浄水場が供用開始しました。両浄水場は耐震性能を有しており、今後は配水池等の耐震化を図る予定としています。

簡易水道は、可能な限り施設の統合を図り、合わせて、計画的な老朽施設の更新及び、耐震化を進めていきます。

水道管の耐震化

主要水道施設と同様に、水道管の老朽化も進んでいる状況です。このため、漏水の頻度が高い路線を優先するなど、現在、計画的に老朽管更新を実施しているところです。また、老朽管の更新の際には積極的に耐震管を採用し、水道管の耐震化も並行して進めています。

耐震管とは

管と管を接続する継手部分に伸縮性と離脱防止機能を持たせた水道管を耐震管といいます。耐震機能を有していない水道管は地震が起きた際に、伸縮性がないものは継手部分が破損する恐れがあり、離脱防止機能がないものは管が抜けてしまう可能性があります。

串間市の水道管の耐震適合率

平成28年4月1日現在

水道管路（基幹管路含む）			
上水道	水道管延長（km）	耐震適合管延長（km）	耐震適合率
	204	31	15%
簡易水道	水道管延長（km）	耐震適合管延長（km）	耐震適合率
	104	18	17%
基幹管路（導水管、送水管、配水本管）			
上水道	水道管延長（km）	耐震適合管延長（km）	耐震適合率
	23	15	67%
簡易水道	水道管延長（km）	耐震適合管延長（km）	耐震適合率
	27	7	25%

基幹管路とは

運用上、重要度が高く代替機能のない水道管のことです。主に、浄水場や配水池周辺の主要管で、導水管、送水管、給水分岐のない重要な配水管等が基幹管路となります。